

成田セイリュウ

滋賀県議会議員

滋賀県議会活動 NewsReport Vol.53 2018年秋号

未来への責任

地震や台風、竜巻、豪雨など、今年は災害が多発しております。**想定外をなくす**ために、新たな課題に対して即座に対応をしていかなければなりません。特に、豪雨による河川の増水や山腹崩壊などは滋賀においても、起こりうるリスクであり、日頃から地域とのつながりの中で、備えを強化していくことが重要であります。



岡山東倉敷市真備町での災害ボランティア活動に参加

滋賀県情報防災マップでは水害・土砂災害リスクマップ、地震リスクマップ等、身の周りにある様々な自然災害のリスクを確認できます。今一度、災害に対する意識を高め、**自助・共助・公助の役割を再認識**していきましょう。

すべての県立高校にエアコンの設置 来年6月からの稼働が決定！

滋賀県における公立高校のエアコン設置状況は、全国平均を下回る状況下であり、平成28年度以降5か年にかけて、整備することになっていました。

しかし、今年7月からの「命にかかわる暑さ」が続いたこともあり、**子どもたちや教員の健康的で安全で豊かな教室環境の確保と学校教育の効果的な推進**の観点から、すべての県立高校に一日も早くエアコン設備が必要であると考え、7月定例会議閉会日にチームしが県議団として要望書を三日月知事に提出しました。

9月定例会議において、整備計画を2年前倒しし、来年6月には県立高のすべての普通教室にエアコンが稼働できるよう、当初19年度20年度に予定されていた22校の工事を前倒しで発注するための補正予算が提出され、可決されました。



三日月知事への県立高校のエアコン設置の要望(チームしが県議団)



プロフィール：1974年8月15日大津市生まれ
 ・唐崎小、中、膳所高、龍谷大学法学部政治学科卒業
 ・同志社大学大学院総合政策科学研究科博士前期課程修了
 ・県民生活・土木交通常任委員会副委員長
 ・琵琶湖対策特別委員会委員・滋賀県議会自転車議連副会長
 ・第11回マニフェスト大賞 優秀政策提言賞受賞
 ・宅地建物取引主任士・大津市消防団地域防災指導員
 〒520-0106大津市唐崎1-25-17-601 mail@narinari.net

骨髄バンクの推進を！

○骨髄バンクとは
 白血病をはじめとする血液疾患等「骨髄移植」などが必要な患者と、それを提供するドナーをつなぐ公的事業。

○骨髄ドナー登録者数
 滋賀県:747人(2016年度)、823人(2017年度)、516人(2018年度8月現在) 全国:48万8871人(2018年8月末)
 ※県内大学での積極的な登録会の開催により、30歳未満の若年者の比率は53.9%全国三位。

○ドナー登録説明員の養成に向けて
 ドナー登録に向け、説明員の役割は非常に大きいですが、現状、説明員の派遣率は50～60%であり、人材が不足している。県としても、今後、シニアの方や学生をはじめ、多くの方がドナー登録説明員養成研修に参加が得られるよう、広く周知を図っていく。

○骨髄移植ドナー助成制度の創設に向けて
 ドナー適合通知が送られた2万4634人のうち、1万5800人が初期段階で移植のコーディネートを終了している。ドナーの健康上の理由が32%。一方、都合がつかず28%、連絡がとれず23%、家族の同意が得られなかった7%と、健康以外の理由が68%であった。家庭や職場をはじめ、社会全体の理解を進めるとともに、県としても、骨髄ドナーへの支援が必要であり、骨髄・末梢血管細胞の提供を行った者等、ドナーに対し支援を行う市町に補助を行う骨髄移植ドナー助成制度の必要性について議論を行った。

森林づくりと山の利活用について

○台風等による山林の被害について

台風第21号により人工林がまとまって倒れた被害が、9月18日現在で大津市ほか5市1町で確認されており、被害面積が約45haとなっている。今後、県民の生命・財産を脅かしかねない山腹崩壊等の二次被害に対し、早期に対策が必要。県としても、現地調査を行い、**土砂流出や流木の危険等、二次被害の危険性の高いところから順に復旧**が図れるよう、造林事業を活用し、倒木の整理等の実施を森林所有者に働きかけることや県、市町での治山事業の検討などを行っていく。



根こそぎ倒れる木(比良山系)



幹が折れる木(比良山系)



大規模な倒木被害(葛川坊村町)



台風による浜がけ(南比良)

○今後の流木総合対策について

山腹部においては、**間伐を進める**ことで、下層植生や木々の根の発達を促し、流木災害の発生源である山腹崩壊の防止に取り組んでいく。渓流部におきましては、上流部では流木となるおそれがある**危険木を除去**するとともに、下流部では**治山事業と砂防事業とが連携してスリット式ダム等を整備**することにより、流木が発生した場合でも、できる限りこれを捕捉する対策に取り組んでいる。また漁場の保全や湖岸の浜がけを防止する上で、適度な砂の供給も効果があることから、施工が可能な箇所においてはスリット式ダムの採用や、治山ダムの工法を工夫するなど検討を行っていく。



スリット式治山ダムの整備(藤尾奥町)



流木化する可能性の高い立木の伐採

○自伐型林業の推進について

自ら持続的に経営・管理・施業しながら、収入を得ていく自立・自営の林業である自伐型林業は長期にわたり間伐を繰り返すことで、面積当たりの質と量の向上や森の多目的活用へと導くため、**良好な森の維持を行うことを可能**とし、

収入をあげる施業と良好な森づくりを両立させることができる。また高密度路網を施設する長期的な多間伐施業により、**土砂流出防備、土砂災害防備、水源涵養、風害防備等の機能を同時に備える環境保全型林業**にもなる。長浜市や米原市では自伐型林業による若者の活躍や移住者の増加など山村の活性化にもつながっており、県としても、今後も、市町と連携し、森林環境譲与税も活用しながら自伐型林業の育成に努めていく。

○トレイルの活用について

トレッキングやトレイルランニング、マウンテンバイクなど**森林における新たなスポーツ利用が、森林利用や山村振興等、地域振興や観光振興にもつながっていく**と考える。特に、全長400kmをこえる滋賀一周トレイルは新たな魅力となり、未開通区間や道標の整備、案内板設置、全線の道標への共通したロゴマークプレートの設置など、市町や各種団体等と連携して取り組んでいく必要がある。



FAIRY TRAIL 高島朽木トレイルランレース



鈴鹿国定公園50周年記念植樹祭

○山岳遭難対策について

本年、県内における**山の遭難事故が過去最悪のペース**で発生している。実際に、倒木や土砂崩壊により、危険箇所や迷いやすい箇所が多数滋賀の山は低い山であることから、軽装で登られる方も多く、草木が生い茂る林道や獣道等、迷いやすい道も多くあり、遭難のリスクの理解を深めていく必要がある。



新たに整備された道標



古い道標も各地に点在

○山の活性化に向けたビジョンの策定について

滋賀の山々に関しても、「**守る**」ことと「**活かす**」ことの**好循環の推進**を果たす必要があり、森林の保全再生の推進、森林資源の活用とあわせて、森林環境学習や観光・レジャー、景観・文化、スポーツ・レクリエーション、健康づくり・癒しなど多岐にわたり、山々・森林の活用も行っていくべきである。今後、琵琶湖におけるマザーレイク21計画のように、琵琶湖森林づくりからさらに大きく、観光やスポーツなども含め、**山の多面的な利活用、若者の流入も意識した山村の活性化を描いた山のビジョンを策定**すべきと考える。